

ホームレス宿泊所開設2年 利用25人「困窮者想定以上」 高知市のNPO



ホームレスら居場所に困る人が一時的に宿泊する「ステップハウス」（高知市内）

困窮者支援に取り組む高知市のNPO法人「こうちネットホップ」の一時宿泊施設、ステップハウスが今月で開設2年を迎えた。これまで延べ25人が宿泊。利用に至らなかったケースを含めると倍以上の相談や問い合わせがあり、関係者は「居場所に困窮している人は想定以上に多い」と実感している。

ネットホップは高知県立大社会福祉学部の田中きよむ教授が代表を務め、2010年に設立。月に1度高知市中心部を夜回りし、路上生活者に食糧を配布したり、健康状態を聞き取ったりして必要な支援につないでいる。

ステップハウスは22年1月に開設。同市内の2部屋（各15平方メートル）で、冷蔵庫や電子レンジ、テレビ、布団などを備える。1泊千円で、最長1カ月程度利用できる。

宿泊者25人の内訳は、路上や友人宅を転々とするホ

ームレス状態もしくはその可能性がある人が18人、DV被害者が7人だった。学費を払えずに大学を自主退学した10代から、70代の高齢者まで幅広い年齢層が利用。その後は、生活保護につながって別の住居に引っ越ししたり、寮付きの仕事を見つけたりするなどし

たという。

このほか相談や問い合わせが27件あり、ひきこもりの末に家族関係が悪化した人や、親から虐待を受けた人もいた。田中代表は「夜回りだけでは把握できていなかった潜在的なホームレスがたくさんいることが分かった」と話す。

同法人は2部屋とも空いた今月6日、夜回りを行うボランティアらを招いた内覧会を開いた。参加者からは「花などを飾り、カーテンの色を明るくしたら心地いい雰囲気になる」などの声があり、今後、可能な点は改善していくという。

利用相談は田中代表（090・7144・439

4）か副代表の下元博司さん（090・3789・3474）へ。（新妻亮太）